

## ごあいさつ

令和2年度に賜りました花蹊記念資料館への変わらぬご支援、ご協力に厚く御礼申し上げます。

『にいくら』26号をお届けいたします。

本号には寄稿論文一篇が掲載されています。

小川功先生（本学観光デザイン学科元教授）による「霊地への特別な秘境旅の跡を見る—明治後期“塗駕籠”に乗って世界遺産・熊野古道を往く花蹊と“山林王”土井家との縁—」です。

明治40年代に発表された花蹊の「瀨峡の一日」「紀州瀨峡へ」（跡見花蹊『をりをり草』第4編和歌と紀行〔大正4年〕に収載）、そして『花蹊手帳』等を参照しながら、花蹊の熊野詣とこれを支えた土井家をはじめとする一連の関係者について、ご専門の経済史・経営史の視点から、実証的、かつ興味あふれる考察を施した論考です。お忙しいなかご寄稿いただいたことに感謝申し上げます。

コロナ禍により、大幅な計画の変更を余儀なくされた令和2年度の資料館の活動、ならびに学芸員課程の記録については、本誌に記載されているとおりです。

最後になりましたが、本誌完成にご尽力いただきました関係各位にあらためて御礼を申し上げます。

令和3年3月吉日

跡見学園女子大学 花蹊記念資料館

跡見学園女子大学 学芸員課程